

小水力発電等のインフラで 稼ぐ地域再生

2019年度
第5回

農

山

漁

村

持続可能な農山漁村を目指して事例から学ぶ



主催（一財）都市農山漁村交流活性化機構

エネルギー事業で稼いだ収益を元手に他の公益的事業に再投資

日時 11 / 12 (火) 13:30~16:30

参加募集

会場 都市農山漁村交流活性化機構会議室
101-0042 東京都千代田区神田東松下町45番地
神田金子ビル5階

参加費
2000円

講師 和歌山県 有田川町 環境衛生課長 中岡 浩 氏

環境エネルギーの先進国、ドイツでは、エネルギー事業で稼いだ収益を元手に、他の公益的事業に再投資するという、シュタットベルケが盛んです。日本では2016年から電力小売全面自由化がスタートし、新電力関連ビジネスも生まれてきており、地域に新たな雇用創出や地域経済活性化例も出ています。電力小売りで黒字を維持し、その収益で他の公共サービスの赤字を補填しているケースは、地方創生の注目株として人口減少で悩む自治体を持続可能にする希望の政策とも言われています。

和歌山県有田川町では、「ごみ分別徹底・資源化」と「再生可能エネルギー導入促進」による環境と経済を両立したエコなまちづくりを「有田川エコプロジェクト」を進めています。

住民の徹底したごみ分別と自治会のごみステーション管理により、高品質の資源ごみが排出され、その結果資源ごみ収集運搬処理業務がマイナス入札の状態になり、さらに太陽光発電設備、県営多目的ダムの維持放流水を町が利用するという全国初のスキームで町営小水力発電所を建設し、

年間約5,000万円の収入を得て住民向けの太陽光発電・太陽熱温水器設置補助や生ごみを堆肥化するコンポスト容器の無償貸与制度の原資とし、循環型社会を目指しながらその仕組み自体も循環型とすることができています。

持続可能な社会を目指す地域行政の最前線を学びます。



お申込み FAX 03-5256-5211

参加申し込み書

- 氏名(ふりがな)〔 〕
 - 団体組織名・所属・役職個人で申込む場合は「所属・役職」の記入は結構です〔 〕
 - ご連絡先(TEL/FAX)〔 〕
 - E-mail〔 〕
 - 参加費のお支払い方法について* 1. 持ち込み 2. 振込
 - 必要書類(宛先の指定が有る場合下欄に記載)について
1 見積書(参加費内訳) 2 請求書 3 領収書 4 必要なし
- …お宛名をお書きください。()